

○參照第十

陸羽震災前ニ於ケル地球磁力ノ變動(明治廿九年九月十四日官報掲載)

地震ニ先タチテ地球磁力ニ奇怪ノ變化ヲ生シタル事例ハ曩ニ本會磁力調査委員ノ報告セシ所ナリ(明治廿七年一月廿七日及本年七月九日官報參照)

仍テ去月三十一日陸羽地方ノ震災ニ際シ東京ニ於ケル中央氣象臺所屬ノ磁力計及仙臺名古屋ニ設置セル本會所屬ノ同器ニ異狀ヲ呈セシ有無ヲ調査シタルニ今回モ亦震災ニ先タチ各地共日常視ルヘカラサル變動ヲ呈セリ則其大要ヲ記シテ爰ニ報告ス

八月中旬以降東京、仙臺、名古屋ニ設置セルマスカール形寫眞磁力計ハ均ク正當ノ變化ヲ示シ來リシカ同月廿九日夜半後ニ及ンテ各地ノ磁針ハ俄然一齊ニ急劇ナル動搖ヲ起シ翌三十日午後八時ニ至ルモ未タ全ク停止セス其復舊シタルハ殆ント同日午後十時ナリ而シテ磁力ノ變化及ヒ其起時ハ地點ニ由リ各差アリ東京ニ於テハ偏角針、垂直分力針、水平分力針共ニ異様ノ動搖ヲ爲シ殊ニ水平分力ノ變化ヲ以テ最トスト雖モ仙臺ニ在テハ却テ偏角ニ著大ニシテ名古屋ノ如キハ偏角ノ外ハ更ニ日常ニ違フトコロナシ斯ノ如キ差異アル所以ノモノハ變動ノ主力ノ作爲ナル乎將タ其原因ハ器

械ノ整理如何ニ存スル乎ハ未タ容易ニ斷定シ能ハスト雖モ東京仙臺名古屋ニ於テ地球磁力ニ不時ノ變動ヲ生シタルコトハ爭フヘカラサル事實トス
今各地ニ於ケル變化ノ強弱ト起時ノ遲速ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ各地磁力計ノ自記紙ヨリ得タル結果ヲ舉クレハ左ノ如シ

八月二十九日及同三十日地球磁力ノ變化(一)ハ廿九日ノ方小ナルヲ示ス

時間	偏角ノ差		水平分力ノ差		垂直分力ノ差	
	仙臺	名古屋	仙臺	名古屋	仙臺	名古屋
午前一時	(一)〇、五	〇、一	〇、四	(一)一、一	(一)一、三	(一)〇、一
同一時三十分	(一)〇、五	〇、一	〇、七	(一)〇、七	(一)一、六	(一)〇、三
同一時	(一)〇、三	〇、四	一、〇	(一)五、五	(一)一、七	(一)〇、六
同一時三十分	(一)〇、四	〇、三	〇、七	(一)七、〇	(一)〇、七	(一)一、六
同一時	(一)〇、八	一、七	〇、七	(一)五、〇	(一)一、六	(一)〇、五
同一時三十分	(一)〇、二	一、七	〇、六	(一)四、三	(一)一、六	(一)〇、一
同一時	(一)一、九	一、六	一、七	(一)五、〇	(一)一、六	〇、〇
同一時三十分	(一)二、〇	一、三	一、五	(一)〇、七	(一)一、六	〇、〇
同一時	(一)一、八	一、三	五、一	(一)〇、六	(一)一、七	一、〇
同一時三十分	(一)一、四	〇、一	(一)三、一	(一)〇、五	(一)一、五	三、〇

同六時	(一) 一〇	〇、六	〇、四	〇、七	一、五	一、八	一、三	〇、四	同四時	〇、五	(一) 一〇	一、一	一、五	一、八	一、三	〇、七
同六時三十分	(一) 〇、五	〇、八	〇、四	一、一	一、三	一、六	一、〇	〇、七	同四時三十分	一、〇	(一) 一〇	一、一	一、四	一、七	一、〇	〇、四
同七時	(一) 〇、六	〇、五	〇、四	一、二	一、三	一、五	一、〇	〇、三	同五時	〇、五	(一) 〇、七	〇、五	一、〇	一、五	一、〇	〇、三
同七時三十分	(一) 一、一	一、一	〇、五	一、四	一、五	一、五	一、六	〇、〇	同五時三十分	〇、六	(一) 一、〇	〇、六	一、一	一、六	一、一	〇、七
同八時	(一) 〇、五	〇、一	一、〇	一、〇	二、〇	二、〇	一、六	〇、三	同六時	〇、五	(一) 一、〇	一、〇	二、〇	二、〇	一、〇	〇、七
同八時三十分	(一) 一、五	二、三	〇、三	二、七	二、七	二、五	二、一	一、三	同六時三十分	〇、三	(一) 一、〇	一、〇	二、〇	二、〇	一、〇	〇、六
同九時	一、九	〇、五	〇、九	一、四	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	同七時	(一) 一、〇	(一) 一、〇	〇、四	一、三	二、八	〇、三	一、八
同九時三十分	(一) 二、〇	一、六	一、二	一、四	一、五	一、五	一、〇	〇、三	同七時三十分	(一) 一、〇	(一) 一、〇	一、八	二、三	二、三	一、一	一、五
同十時	一、〇	(一) 〇、四	(一) 一、〇	(一) 一、三	(一) 一、五	(一) 一、〇	(一) 一、〇	(一) 〇、七	<p>八月二十九日ニ於ケル各地ノ磁力ハ日常ノ變化ヲ呈シタルニ 翌三十日ニ至リ各地トモ急激ノ動搖ヲ來セリ其起止ノ時刻 (中央標準時)ハ大略左ノ如シ</p> <p>起 時 止 時</p> <p>仙臺 八月三十日午前二十分 八月三十日午後八時頃</p> <p>東京 全 午前一時三十六分 全 午後九時頃</p> <p>名古屋 全 午前一時五十五分 全 午後八時頃</p> <p>乃チ急變最モ早ク起リシハ仙臺ニシテ東京ニ先タツコト十六 分名古屋ニハ三十五分ナリ顧フニ自記裝置ニ供スル振子時計 ハ各地合同シテ分秒ノ差ナキコトハ固ヨリ期シ難シト雖モ毎 日一回間接ニ相互ノ比較ヲ爲スカ故ニ一分時以上ノ狂アルコト ナシ是ヲ以テ變化ニ十分時以上ノ遲速ヲ生シタル原因ハ器械</p>							
同十時三十分	一、三	〇、〇	〇、五	一、五	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇								
同十一時	〇、〇	(一) 〇、一	(一) 〇、二	(一) 〇、〇	(一) 〇、二	(一) 〇、八	(一) 〇、一	(一) 一、四								
同十一時三十分	〇、二	〇、一	〇、九	(一) 一、八	(一) 〇、三	(一) 一、〇	(一) 〇、五	(一) 一、二								
正午	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃								
午後零時三十分	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃								
同一時	(一) 一、五	〇、六	一、五	(一) 〇、一	(一) 二、〇	〇、〇	一、四	一、五								
同一時三十分	〇、一	〇、六	一、四	(一) 〇、四	〇、〇	〇、二	一、五	一、七								
同一時	〇、四	〇、四	一、八	〇、一	六、三	一、〇	一、〇	二、四								
同一時三十分	〇、〇	〇、〇	一、三	(一) 〇、三	二、五	一、〇	二、九	一、〇								
同三時	〇、三	〇、〇	一、二	(一) 〇、五	二、九	一、〇	二、七	一、一								
同三時三十分	(一) 〇、五	(一) 〇、五	〇、八	(一) 〇、四	二、三	一、〇	二、六	一、一								

以外ニ存スルコト明白ナリ

各地ニ於テ變化ノ最モ激甚ニシテ且頻繁ナリシハ三十日午前八時ト九時(陸羽ノ烈震ニ先ツ約三十三時間)ノ間ニ生シタルモノニシテ仙臺、名古屋ニ在テハ偏角、水平分力、垂直分力ノ三者共ニ變動シ名古屋ニ在テハ單ニ偏角ノミニ止レリ從來ノ地震ニ於テ觀察セシ變動ハ特ニ水平分力ニ著カリシカ今回ハ殊ニ偏角ノ變化甚シク獨リ東京ニ於ケル水平分力ノミハ他兩所ニ卓越セルヲ認メリ斯ノ如ク地點ニ依リ地球磁カノ變化ニ差アリ又地震ニ依リテ變化ノ狀況ヲ異ニセル所以ハ將來深ク攻究ヲ盡スヘキ事項トス

明治二十九年九月

委員 和田 雄 治

震災豫防調査會長 理學博士 菊池大麓殿

追テ參考ノ爲メ八月三十日ニ於ケル各地自記紙ノ寫一枚ヲ添付ス

明
 治
 二
 十
 九
 年
 八
 月
 三
 十
 日
 地
 球
 磁
 力
 變
 化
 午後二時
 午後三時
 午後四時
 午後五時
 午後六時
 午後七時
 午後八時
 午後九時
 午後十時
 午後十一時
 午前二時
 午前三時
 午前四時
 午前五時
 午前六時
 午前七時
 午前八時
 午前九時
 午前十時
 午前十一時

偏角ノ變化
 仙臺 東京 名古屋

垂直分力ノ變化
 仙臺 東京 名古屋

水平分力ノ變化
 仙臺 東京 名古屋

